

ライブラリー 松陵

【第85号】

令和4年2月28日発行

◇編集・発行◇
宮城県泉松陵高等学校
総務部・図書

私の『泣いた赤鬼』

校長 徳能 順子

「心のやさしい鬼のうちです。どなたでもおいでください。
おいしいお菓子がございます。お茶も沸かしてございます。」

人間と仲良くなりたい赤鬼が自分の家の前に看板を立てました。しかし、人間は鬼を疑い誰一人近寄りません。悩んでいる赤鬼の話聞き、青鬼は次のような作戦を考えます。

青鬼が人間の村へ出かけて大暴れをする。そこへ赤鬼が出てきて、青鬼をこらしめる。そうすれば、人間たちにも、赤鬼が優しい鬼だということが分かるだろう。

計画は見事に成功し、村人は安心して赤鬼の家に来ようになり赤鬼はとても喜びましたが、ある日から青鬼は赤鬼の家に来なくなりました。赤鬼が心配して青鬼の家に行ってみると、次のような張り紙がありました。

「赤鬼くん、人間たちと仲良くして、楽しく暮らしてください。もし、ぼくが、

このまま君と付き合っていると、君も悪い鬼だと思われるかもしれません。それで、ぼくは、旅にでるけれども、いつでも君を忘れません。さようなら、体を大事にしてください。どこまでも君の友達、青鬼」

赤鬼は、何度もそのメッセージを読み返し、しくしくと、涙を流して泣きました。

幼い頃に『泣いた赤鬼』を読んだ時は、本当の友だちの存在や大切な友だちを失う悲しさなどについて考えさせられました。絵本のお話は、子どもの心に深く影響を与えるものです。

しかし、大人になった今、この話を読み返すと、残念ながら次のようなことも考えてしまいます。

赤鬼くん、看板だけで自分の良さを認めてもらおうなんて甘いですよ！

自分の足を使って一歩踏み出し、勇気を振り絞って人と交流してみましよう。

赤鬼くん、自分が楽しいからって青鬼くんの存在を忘れるなんてひどいです

よ！

人間と仲良くなった後、すぐに本当のことを話し、青鬼くんも人間に紹介すべきでした。青鬼くんだって人間と仲良くなりたかったはずですよ。

青鬼くん、手紙だけでお別れなんてずるいですよ！

本当の友だちなら、本人に直接思いを伝えましよう。一方的な言葉だけで姿を消したら、赤鬼くんは一生悩み続けますよ。

おいしいことだけ書いた看板一枚で、人の心をひこうとした赤鬼くんには当然共感できません。しかし、大切なことを張り紙一枚で伝えようとした青鬼くんにも共感できません。自分の足で一歩踏み出して人と交流し、大切なことを直接相手に伝える勇気を持って欲しいと思います。

読書の楽しみの一つは、その本を読んだときどきの自分の置かれている状況や感情によって、作品の捉え方が変わることです。同じ本を何度も読みたくなることとがあるのもそのせいでしょう。子どもには子どもの「赤鬼観」があり、大人には大人の「赤鬼観」があります。私は一教員ですから、当然生徒のことを思いながら本を読んでしまいます。本から教訓を得ようとするのも教員の悪い癖の一つかもしれません。

さて、学校には必ず図書館があります。学校図書館法の規定では、すべての学校は図書館を置かなければならないものとされています。その図書館を、小学校から高校まで皆さんはどれくらい活用してきましたか？ あまり足を運んだことがない人は、この図書館報を読んだ今から

でも遅くはないので、どんどん活用してみましよう。

学校図書館の役割は大きく分けて二つです。一つは、「読書センター」として、みなさんの創造力を培い、学習に対する興味関心呼び起こし、豊かな心を育む働きです。もう一つは、「学習・情報センター」として、みなさんの自発的かつ主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成する働きです。自分の興味関心ある本をどんどん読んでみたい人は「読書センター」としての働きを活用し、授業で分からなかったところや解決したい問題について調べてみたい人は「学習・情報センター」としての働きを活用することになります。

今まであまり学校図書館を利用したことがなかった人は、まず図書館に足を運び図書司書の渡邊先生に「泣いた赤鬼」を読んでみたいです。」と尋ねるところから始めてみましょう。本校の図書館のどこにあるのか、また、もし無い時はどこの図書館にあるのか教えてくださると思います。

自分の足を使って一歩踏み出し、勇気を振り絞って人と交流してみましよう。そして、実際に紙の本を手にとってページをめくり、今自分が置かれている状況や感情を整理してみまことを強くお勧めします。



『泣いた赤鬼』
(浜田広介 小学館文庫)

多読賞おめでとう！

多読賞は三年間で貸出冊数が一〇〇冊を超えた生徒に贈られます。今年度の受賞者は四名です。多読賞を受賞した四人に高校時代に読んだ本の中からおすすめの本を紹介してもらいました。

多読賞受賞者

- ◆三年一組 富田 鼓美 三〇一冊
- ◆三年五組 鈴木 大智 二〇五冊
- ◆三年一組 中畑 天 一一一冊
- ◆三年二組 岡沼 翼 一〇六冊

『サロメ』

(原田マハ 文春文庫)

三年二組 富田 鼓美



メ』です。

私が三年間の学校生活で一番気に入っている本は原田マハさんの『サロメ』です。

この本は「サロメ」の挿絵で有名画家となったビズリー、彼を見出した作家で男色家のワイルド、二人の禁断の関係が引き起こす四つ巴の愛憎関係を描いた物語です。しかし、この物語の主人公は二人のどちらでもありません。ビズリーの姉であり女優でもあったメイビルなのです。彼女は結核を患っていた弟の才能を信じていました。そして彼女は自分と弟を高めへ登らせるために、行動します。ワイルドを利用するのです。ビズリーとワイルド、メイビルが二人を意図せず引き合わせたことから、物語は大きく動き始めます。

この本の魅力は、緻密かつ引き込まれてしまう心理描写です。物語はメイビルの視点で進められるため、彼女の心の内が細かく表されています。弟の才能が表へ出ない事への不満や悲しみ、自分と弟が有名になっていくことへの興奮。特に私の印象に残っているのは、ビズリーとワイルド、二人の関係への苦悩です。舞台のイギリスでは当時、同性愛は犯罪でした。二人のその関係がメディアに露見すれば、待っているのは破滅です。自分と弟で有名になったかった、しかし大切な弟を破滅の道に進ませたくはなかったのです。この心理描写がとにかく生々

しいのです。文章の端々に散らばり表現されている彼女の気持ちがいじわりと、そして強烈に伝わってきて、読み進めるごとに胸が苦しくなってしまうます。

この本に登場する人物のほぼ全員が、実在した人物です。題名である「サロメ」はワイルドが、挿絵の絵はビズリーが実際に描いた作品です。史実とフィクションの絶妙な組み合わせ、生々しい心理描写から実際に起こったことのように錯覚させられる、一度読み始めたら止まらない作品です。

『僕はロボットごしの君に恋をする』

(山田悠介 河出書房新社)

三年五組 鈴木 大智



私が今回紹介する本は、山田悠介さんの『僕はロボットごしの君に恋をする』

る』という作品です。

この本は、三度目のオリンピック開催が迫る二〇六〇年の東京が舞台となっています。主人公は、人型ロボットを使っていた国家的極秘プロジェクトのメンバー大沢健。健が、幼なじみで同僚の陽一郎と彼の妹の咲と奮闘していく物語です。ある日、咲の勤務先にテロ予告が届き事態が急変していきます。目的を達するため

に、はてしなく暴走する研究者の狂気。健はテロを防ぎ、想いを寄せる咲を守ることはできるのでしょうか。

私は将来の日本にもありうる社会だと思いました。好きな人がいて、気持ちを伝えられて、それなのに触れることができない。自分が好きな人が隣で笑っているのに、その笑顔は、自分ではない自分に向けられていること。「愛」という言葉が思っただけでは気持ちが届かない世界となるのだらうと思います。

もし、計算で「心」を生みだせるのであれば人間の複雑な「心」は必要なのでしょうか。

私が読んだ恋愛小説の中でも、かなり考えさせられる一作となっています。普段恋愛小説を読まないような方にもおすすめの作品です。

『生き物の死にざま』

(稲垣栄洋 草思社)

三年一組 中畑 天



私が高校生の三年間で最も印象に残っている本は『生き物の死にざま』です。

この本には、私たちの生活で身近にいる生き物だったり一度は聞いたことのある生き物たちが、どのようにして生まれ

私が高校の三年間で一番おもしろい

『恋する寄生虫』

(三秋純 KADOKAWA/メディアワークス文庫)

三年二組 岡沼 翼

そして死んでいくのかという生き物たちの一生の様子が描かれています。登場する生き物はおよそ三十種です。しかし、生き物によって生まれる環境が異なるとともに、死にざまも異なるので、生き物の一生にも多くのパターンがあります。寿命によって命を落とす、食用のために命を落とす、人間のせいで絶滅してしまった、我が子のために命を捧ぐなど、生き物の死にざまは生き物によって異なります。そして、生き物たちにはそれぞれ異なるドラマがあります。

私はこの本を読んで生と死について深く考えさせられました。命あるものは必ず死もあるというのは生き物にとっては必然であり、避けられません。しかし、死というのは全てが悪いイメージではないと考えます。確かに、死というのは恐ろしいことであり、悲しくなることもあるでしょう。しかし、生き物の中には我が子のために命を捧ぐものもいます。次の世代にバトンを渡すように、我が子を育てます。これは命を繋ぐための死でもあるのです。この本を通して、生と死という一生がどんなに奇跡であるかを思い、考えるでしょう。



と思った本は『恋する寄生虫』です。

この本は、失業中の青年と不登校の少女の二人が社会復帰に向けてリハビリを共に行う中で惹かれ合い、恋に落ちるという話です。

主人公の失業中の青年は、ひどい潔癖症でそのせいで人間関係がうまくいかず失業し、そのときに出会った不登校の少女も視線恐怖症により同じように不登校。

そして、二人は社会復帰のためにリハビリをしていく中で一人の時には感じられなかった喜びや幸福を知り恋に落ちていきます。

しかし、幸福な日々は続きません。それは、今までの感情は彼らに寄生している「虫」の影響かもしれないからです。「虫」は寄生主を孤立させ、寄生されている者同士を恋に落とすというものでした。

この恋は「虫」の仕業か、それとも運命なのか、その答えは彼らに寄生する「虫」が絶滅したときに判明します。

この本は、情景や伏線も分かりやすくとても読者にやさしいと感じました。普段漫画しか読まない方でも読みやすいと思うので、是非一度読んでほしいと思いました。

図書館ランキング2021



貸出冊数上位者 (2021.4～2022.1)

順位	クラス	氏名	利用冊数
1	1-2	佐藤 蒼矢	151
2	3-2	富田 鼓美	106
3	1-1	戸松 優芽	75
4	2-3	丹野 遥	73
5	2-6	門倉 遼祐	59
6	1-2	渋谷 妃南	50
7	3-3	谷井 奏太	46
7	3-4	矢崎 和葉	46
7	2-6	海老主隆明	46
10	3-1	中畑 天	37

貸出冊数上位図書 (2021.4～2022.1)

順位	書名	著者	利用数
1	推し、燃ゆ	宇佐見りん	7
1	トレース式マンガキャラ練習帳[基本デッサン]	子守 大輔	7
3	君の臓をたべたい	住野 よる	6
3	はたらく細胞	清水 茜	6
3	文豪ストレイドッグス	朝霧カフカ	6
6	か「」く「」し「」ご「」と	住野 よる	5
6	ゼロから1ヵ月で受かる 大学入試 面接のルールブック	神崎 史彦	5
6	今から間に合う総合・推薦入試面接	宮岡 政徳	5
6	カゲロウデイズ	じん (自然的P)	5
6	3月のライオン	羽海野チカ	5
6	銀の匙	荒川 弘	5

(シリーズものは最上位図書の貸出回数)

分類別貸出冊数 (2021.4～2022.1)

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	その他	合計
1 学年	3	32	23	53	24	5	8	261	19	291	37	756
2 学年	0	13	1	14	9	3	0	58	1	203	8	310
3 学年	11	31	35	161	40	10	12	118	46	245	8	717
合計	14	76	59	228	73	18	20	437	66	739	53	1783

(「その他」は絵本など)

源氏物語絵巻を 使った授業

三年生の古典の授業で国宝「源氏物語絵巻」の複製資料を利用した授業が行われました。これは宮城県図書館で所蔵する複製資料貸出事業を活用したものです。

授業では現存する四巻の絵巻物の複製を図書館のテーブルに広げ、先生から物語や登場人物についての説明を聞きながら鑑賞しました。授業で学習している部分の詞書を教科書と見比べたり、登場人物の気持ちに想いをはせたりしながら一二〇〇年前の平安貴族の世界を味わいました。



図書館に展示した関連図書では、絵巻物はどういうようにしてつくられたのか、絵の彩色には何を使っていたのか、十二単の着方は、当時の女性には長い髪をどのように洗っていたのかなど、興味を持ったことを調べる姿がみられました。また、現代語訳やコミックで壮大な全体ストーリーを確認したりと、生徒たちは源氏物語の奥深さ、面白さを堪能しました。

借り受けた絵巻物は昼休みや放課後も図書館に展示し、一・二年生の生徒にも公開しました。

図書委員会の 活動より



店頭選書

毎年図書委員の生徒が楽しみにしている店頭選書。今年も生徒が書店に出向き、実際に本を手にとって図書館に入りたい本を選んできました。

店頭選書に参加して

一年三組 鈴木佑里菜

私は今年の夏に、図書委員が書店に行き図書館に新しく入れる本を選ぶ店頭選書に参加しました。

私は、本を選ぶときに二つ気をつけていたことがあります。

一つは、手に取りたくなる本かどうかということ。つまり表紙です。目を引くタイトルであるか、表紙のデザインやイラストが魅力的なものを選ぶ選びました。

二つ目は、本の内容です。本の帯や裏表紙に書いてあるストーリーから面白そうなものを選んで、自分が読んだことがあって面白いと感じたもの、漫画のものになった原作の小説、ライトノベルなど幅広いジャンルから選びました。

今回店頭選書に参加して、読む人のことを考えることが出来ました。最初のうちはどの本にするか迷っていましたが、途中から夢中になって選んでいました。こういう機会はあまりないので貴重な体験ができて楽しかったです。

店頭選書を踏まえて

一年三組 小田島果凛

私が本を購入するときは、直接本棚を探してみつけるか、本屋の店員に本の場所を聞きまします。最近では、インターネットショップを利用して購入する方法もあるようです。

しかし、店頭選書は違います。本を選ぶことは一緒ですが、選ぶのは学校の図書館に置く本だからです。私の好きな本を選ぶことはもちろんですが、私以外の生徒にも読んでほしいので、幅広い種類の本の中からじっくりと時間をかけて厳選するからです。

私は、他の生徒におすすめする本を事前に調べて、話題の本を中心に選びました。図書館に並んだときには、真っ先に選んだものを借りました。私にとって本の魅力とは、どんな内容が書いてあるのか、いろいろと想像して楽しめることです。続きがあれば読みたくなるし、面白ければ何度でも読み返し、その世界観に私がいけるような錯覚を起します。

今回、本を選ぶことで、とても素晴らしい時間を過ごせたと思います。本に興味をもったなら是非一度は、店頭選書の経験をしてみてはいかがでしょうかでしょう。



松陵四〇周年おもしろヒストリー

今年には泉松陵高校開校四〇周年！秋の読書週間の図書委員会企画では、四〇周年にちなんだ特別企画を行いました。図

書委員名付けて「松陵四〇周年おもしろヒストリー」

図書館に保管している開校以来の学校要覧や生徒会誌、PTAや同窓会の広報などの中から気になるトピックスを探して、当時の写真や新聞記事と共に図書館前の廊下に掲示しました。

「トピックスの例」

- ・校舎半分建設途中で開校（一九八二）
- ・片道十六時間の修学旅行（一九八二）
- ・共学校なのに男女別クラス？（一九八五～一九八七）
- ・生徒数最大は九クラス一七三人（一九九三～一九九四）
- ・部活動数最多の四〇（二〇〇〇）
- ・授業は一コマ六五分（二〇〇三～二〇一三）
- ・制服チェンジは二〇周年・四〇周年（二〇〇一・二〇一一）

また、図書館の展示コーナーでは、四〇年前の第一期生が使用した教科書を展示しました。

図も写真も白黒の教科書に令和の高校生はびっくり。「地理」の国名が現在と異なっていたり、「現代社会」の人口ピラミッドでは高齢者が少なく子供が多かったり、生徒たちは驚きの声をあげながら自分たちの教科書と見比べていました。

